

HSK

どうじん

第 45 号

昭和48年1月13日 第3種郵便物認可
H. S. K通巻258号

発行日 平成5年9月10日
(毎月10日発行)

編集 北海道腎臓病患者連絡協議会
札幌市北区北35条西5丁目1-10
AMS南麻生308号

発行 北海道身体障害者団体定期刊行物協会
札幌市中央区北9条西19丁目55
細川 久美子

平成5年 初秋号

医療講演「二次性副甲状腺機能亢進症」



久木田和丘先生



講演風景

北海道腎臓病患者連絡協議会

滋賀県大津市で 第23回全腎協総会に 参加して

岩 崎 薫



を眺めながらゆったりとした気分
で五月二十九日(土)全腎協
の交流会が開催された。

全国からの出席者数四百人そ
のほか政界行政と二十数人の出
席者を迎えて盛大に行われた。

宇野元総理も見えられ、型ど
りの挨拶が行われ、江州音頭が
揃いのゆかたで、踊りの列が会
場をめぐる全員の手拍子で盛り
上がり、全国の仲間との一体感
を味わえた交流会でした。

あけて翌三十日(日)会場を
大津市民会館に移し九時三十分
の開場には一千人余もの会員が
続々と集合し北海道からも旅行
団を企画して四十五名の参加で
した。

年々高齢化する日本の人口同
様、患者の老齢化が見られ車椅
子の人が目立ち、特に杖をつい

ての参加者が多いのが気がかり
でした。

会場は熱気にあふれておりま
したが政界のあいさつが滋賀県
知事を筆頭につづき全腎協の組
織のたくましさや称賛するほか
社会福祉の後退だけはさせては
ならないとの力強いメッセージ
が次から次へと披露されました。
新年度にむけての運動方針も
全員一致で可決され午前中で終
了、午後からは六つの分科会が
室別に催されました。私は第六
分科会「これからの会活動」に
出席いたしました。「法人化に
伴う活発意見」が賛成反対の両
方からだされ、原則として現行
組織、機構を変更しない法人化
を目指すことと確認しました。

会議は午後三時三十分を以て
終了し、北海道組は透析患者三
十七名が桃仁会病院で、日曜日
にもかかわらず院長先生の厚意
で治療を受けましたがこの病院
は京都桃山御稜の近くでベット
数八十六、患者数四百四人、三
クル制で透析をしている京都
随一の大きな病院でした。夕食
の素晴らしいご馳走、希望者は
缶ビールまでサービスするとい
う気の配りようでした。透析後
は京都のホテルまで院長先生と

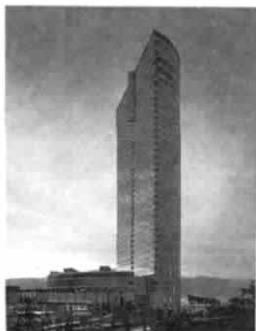
患者会幹部の皆様にタクシーの
手配までしていただきました。
最終の透析者が夜の十時過ぎに
なりましたが川村団長と私が一
緒につきあいホテル到着は十一
時近くでした。透析も二、三の方
の貧血があったものの全員が異
常なく終了しホット致しました。

翌三十一日(月)六月一日
(火)は京都へ奈良の観光を經
て一人の事故もなく全員が元氣
で帰宅致しました。

慌ただしい旅行でしたが旅先
での透析ができて全員が元氣で
帰ってきたのが何よりの土産で
した。

総会成功のために何年もご苦
勞なされた柳田会長をはじめ桃
仁会病院の院長先生、患者会幹
部の皆様に大変お世話様になり
快適な透析ができて素晴らしい
旅行でした。

改めて厚くお礼申し上げます。



大津プリンスホテル夕景

琵琶湖、日本最大、県面積の
約六分の一を占める琵琶湖は、
まさに滋賀県のシンボルとい
うにふさわしい湖、緑豊かな山並
を背にさざ波きらめく湖面は四
季を問わず吾々を魅了する。歴
史の発祥の地でもあり万葉の時
代より幾多の歌人、旅人のロマ
ンをかきたててきた湖都大津、
その大津の琵琶湖のほとりに、
超高層三十八階の大津プリンス
ホテルがある。

四季折々の表情をみせる湖面

6月6日

道腎協第16回総会開催される

道腎協結成以来15年間、患者会員の医療と福祉の向上をめざし、幾多の困難を克服して運動を進めて参りました。

しかし、私達を巡る状況は依然として厳しく長期透析による合併症の問題、患者の高齢化による介護問題、血液検査の定額化、さらには「生活大国」をめざすといわれながら、社会保障を後退させていく国の姿勢が見受けられます。

私達は、このような困難の流れの中で、この1年活動を展開して参りました。

総会では、昨年の活動報告と本年度の活動方針を討議して行われました。



平成5年6月6日、札幌市の北海道教育会館で道腎協第16回定期総会が全道から参集した会員百80余名の方々の出席を得て開催されました。

上田副会長の司会で始まり、最初に津田副会長の開会の挨拶があり、続いて全員で物故会員への黙とうがなされました。

岩崎会長の挨拶は「今、日本の透析技術は世界一になって、透析患者が全国では12万人を突破している。」

「今は、十分な透析が受けられているが、今後は透析の定額制の導入が検討されているとの情報で、ダイアライザーの再使用や透析医療の質が懸念される。この様な定額制には断固反対の運動をしていかなければならない。」とのことでした。

続いて来賓の皆様から会員に対する激励、本会へのご協力のお言葉を戴き、祝電、メッセージの紹介が行われ、道南腎協の田中政夫氏を議長に選出し、議事に入りました。

まず、昨年度の活動報告が堀井事務局長より行われ、次

いで村本
会計より
決算報告

安江・永
田両監査
より会計

監査の報
告が行わ
れ、質疑

応答の後
全会一致
で承認さ
れました。

そして、
今年度の
活動方針案が岩崎会長から、村本
会計から予算案の提案がされ、い
ずれも原案通り承認されました。

役員改選案、スローガン、総会宣言すべて全会一致で採択されました。

最後に廣岡副会長の挨拶で閉会しました。

昼食休憩の後、午後からは、道腎協結成15周年記念シンポジウム「腎臓病を考える集い」を開催しました。

このシンポジウムの内容は、後日お知らせ致します。



ご 来 賓

北海道議会議員

大橋 晃氏



(財)北海道難病連帯常任理事

小田 隆氏



北海道腎移植者連絡協議会会長

松浦 信博氏



祝電・メッセージ

道保健環境部保健予防課長 傅法公麿氏、札幌市長 桂信夫氏、全腎協会長 油井清治氏、北海道臨床工学会士会会長 井関竹男氏、(財)北海道腎臓バンク理事長 竹井正直氏、(株)モロオ、トウレメディカル(株)、森永乳業(株)、ガンプロメディカル(株)、(株)バレオ

県 腎 協

岩手、秋田、山形、福島、茨城、群馬、埼玉、千葉、東京、川崎クリニック、山梨、長野、富山、石川、福井、岐阜、静岡、愛知、三重、滋賀、京都、大阪、兵庫、鳥取、島根、岡山、広島、徳島、香川、愛媛、高知、福岡、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島、沖縄



～ ホットライン ～

「検査と合併症」

副会長 廣岡 達夫



私は9月7日で透析満20年となります。透析の初期はHt低下、透析中の極端な血圧低下による嘔吐、失神など、しばらく後には筋肉のつりにずいぶん悩まされ続けましたが、4、5年過ぎからそんな症状もなくなりました。

それが満15年を過ぎたあたりから合併症の自覚症状が出て来ました。初めは右手手根管症候群で、その年の11月に手術を受け、それ以来、一昨年の4月にはアミロイドージスによる頸骨損傷で手術、半年の入院生活をおくり、又昨年六月には左手手根管症候群の手術を受け、今も右手首に原因不明の腫脹、疼痛、両膝関節痛と屈伸の不自由、腰痛に悩まされております。

長期透析の患者さんは多かれ少なかれ、何らかの合併症が現れ、

悩んでおられる事と思います。

所で昨年4月より検査料が定額制となつて、病院によっては今迄月2、4回行っていた定期検査を變更しています。それでも検査項目と回数については日本透析医会で1989年に作成した「安定期慢性維持透析の保険治療マニュアル（全腎協No129号15、16頁参考）」に従つて行っている病院が多いと思われませんが一部病院ではそれよりも少ない日数項目で検査をしている所もあると思います。

患者さん達はH₁、BUN、Ca、P、Kなど病院により項目が多少違ふにしてもデータを知らされていると思うのですが、中にはそれらに関して全く無関心の方がおら

れるのは残念です。10年以上前に

はB₂マイクログロブリンによる合併症も副甲狀腺機能亢進症による合併症も分からずにいたのが今では検査によって分る様になって来ています。それらの検査は毎月行うものではないのですが、何か体調に変化があった場合患者の側からも質問して、それに対応してもらう事が必要です。

自分の体は自分で守るという気がまえが必要で主治医と検査結果、その対応について話し合う事が大切だと思います。今はダイアライザーも良いものがありますし、手術で治るものもあるのですから早めの対応が良い結果をもつ様になると思います。

ブロッツク便り

苦小牧ブロッツク

「さくらんぼ狩り」

私達は、昨年に続き、今年も辻

警町にさくらんぼ狩りに行って来



ました。患者、家族、合わせて61人、乗用車乗り合わせで、お天気にも恵まれ、最高のドライブ日和で美笛峠もとてもきれいでした。私達、患者はさくらんぼも沢山食べられないのに、なんで楽しいのでしょうか。この木は甘いのか、あの木は甘いのか、さくらんぼを取って歩くのが楽しいのでしょうか。私もそうですもの、天気の良い初夏の空気をお腹いっぱい吸い、今年もレクリエーションに参加出来て幸せだと思つたのです。きっと来たくても来れない人は残念だと思います。お昼にはめいめい自分で持ってきたお弁当を広げ皆でおいしくいただきました。その後全員参加のくつ投げのゲームをしました。1位から6位まで豪華商品？その他参加賞をいただいてレクリエーションは終わりです。元気でいれば明年も皆と一緒にレクリエーションに参加できる楽しみをもって一日一日を大切にしたいと思います。皆さんも頑張つて楽しい日を過しましょう。

（報告…松浦範子）

小樽ブロック

「小樽ブロック総会を終えて」

好天に恵まれ、穏やかな朝を迎えました。絶好の運動会日和となった当腎友会の総会は、約40名を超える会員、ご家族の皆様によって開催されました。会場は昨年と同じJR小樽駅そばの日専連ビル4階会議室を借用しました。

総会の議事終了の後、今年は特別企画として、うの外科クリニック



院長宇野弘昌先生から医療講演をお願いする事と致しました。宇野先生には大変お忙しいなか特別にご都合を付けて戴いて、約30分に亘り「より良い透析を続ける為に」と題し非常に判り易くお話しして戴きました。平素透析を続けている皆様にとって、各自なりに病状を把握し自己管理に徹していると思いますが、遂々自己に有利な考えに流されがちなものですね。そこで今一度原点に立返って透析の原理を正しく勉強し、日々の自己管理を如何に進めて行くかを考え直して見る必要があるのではないかとという事で出来るだけ易しく講義して戴きましたが、大好評を博し今後も出来るだけ此の様な機会を作ってもらいたいとの意見が多数ありました。更に来賓として出席賜った道腎協事務局長堀井和彦さんより医療や福祉の現状や対応について最新の状況をお話して戴きまして、今後の患者会の活動

を如何に進めて行かなければならぬかを改めて認識させられました。平素私たちに配布されている「全腎協、どうじん」等の会報やニュースなども良く読んで、活用する事が大切ではないかと考えます。総会の議事である前年の活動

釧路ブロック

「幕別温泉日帰りの旅」

まずまずの天気の中、8時半釧路市立病院を皮切りに林田クリニックス、協立病院と会員家族を乗せて出発しました。途中、大楽毛駅前

で1人、白糠町で1人、音別町で1人をそれぞれ乗せて行きました。マイカーで向かった人を合わせるのと何と61人にもなりました。これは近年になく多い参加者でした。途中、トイレタイムを取らなくていいのが私たち患者会の旅行の特徴。バスのなかで、車ナンバーあてゲームやジャンケンゲームなどをしながら楽しく過ごしているうち

報告、会計決算報告等は問題なく承認されましたし、新しい年は役員なども増員し、会員相互の意識の向上を計る事を中心に積極的に親睦活動を重点に進めて行きたいと念願しつつ、散会致しました。(報告…津田嘉郎)



―パークゴルフの一日―

に、幕別温泉旅館に到着しました。さっそく焼肉パーティーの始まり始まり。

参加者は皆、会費分は食べるのかけ声とともに一心不乱の1時間あまりでした。

例によって、ある程度リミットに達したら、あたりは静寂に一つまれました。

ビールやジュースも、飲める分量だけいっぱい飲んで、満足してました。そのあとは、パークゴルフをする人、温泉に入る人、何かをほしそくにぶらぶらする人(あつ

失礼)景色を見学する人など、3時頃までゆっくり過ごしました。集合時間になったところで、点

呼を済ませ、釧路に向けて出発しました。

帰りは少し疲れたのか、皆おとなしくしていました。釧路に午後

5時頃到着し全員無事で帰ることができました。

今回は、ご夫婦が何組か参加してくださいました。また、50〜60名の参加と大変多くの参加を見たのも嬉しいことでした。

(報告・釧路事務局)

旭川ブロック

「旭川日赤病院で栄養教室開催」

6月8日2時から栄養教室が開かれました。内容は透析食の作り方で講師は調理師の鷹田、角谷及び岡部の3先生、はじめに栄養課の佐々木管理栄養士から「腎不全患者の食事療法」の講義があり料理に入りました。献立はあざりとしゃっきりポテトのからし和え、レバー入カリントウ、枝豆のごま

豆腐、ペパーミント寒天及びえび詰め蓮根の揚げ物の5点料理を作りながらの講義でしたが大変手早く感じしました。

本日の参加人員45名、患者より家族が多かったようです。最後に試食会を行い、この間約2時間大変充実した内容でした。

ついでですので私達の透析現況



うで真夜中の仕事も多いようです。スタッフ共々大変なようで私達も頭が下がります。

「旭川地方腎友会

総会開催」

6月20日午後1時から旭川地方腎友会総会を開きました。来賓として菅原道義、恩田難病連旭川支部長そして道腎協岩崎会長各々あいさつをいただきましたが、よいお話で集まった市内5病院からの会員皆熱心に聞き入りました。司会は私で安江副会長を議長に選出し報告関係は大石事務局長とし盛大で実のある会でした。地方が舞台となる事を認識し行動することを決意し終了しました。

近く運営委員会を開き、計画を実行に移すための協議する予定です。

(報告・佐藤昌夫)

の1コマを紹介いたします。ドクターは山地先生をキャップに和田先生そして今月から鈴木、佐藤の先生を加え4名、先月から腎内外の診療室が出来ました。診察時にはコンピュータを使います。個人の病歴、病状等色々データが入っているそうです。昨年の患者会の機関誌に山地ドクターがメカに強い先生として和田先生を紹介しました。患者達は信頼を増し、私は話のタネと自慢が1つ増えました。腎臓内科は旭川では1つのせいか重い患者が集中しているよ



「道立江差病院人工透析室の

運用にあたって」

松山地区に居住する会員の積年の要望であり、また数年来からの関係機関に強く設置を求めてきた、

江差病院の透析施設がようやく陽の目を見ることになりました。

去る5月15日に江差病院を訪問し、齋川事務長さん、花房庶務課

長さん、常田総看護婦長さんにお逢いで色々とお話することが出来ました。

透析室は4階建の江差病院の3階にあり、昇降には階段のほかエレベーターも使えます。

東側に大きい窓がある透析室は明るく清潔な部屋です。

ベットは6床あり透析機器は最新のもので用意されています。

透析室のスタッフは、主治医は7月1日付で札幌医科大学第2内科から赴任され、看護婦さん3名は道立北見病院で透析看護の研修を6週間受けるそうです。

臨床工学士さん、栄養士さんもそれぞれの立場で運用に向けて研修をされています。

さて、透析のサイクルは1日1部で月曜から土曜まで行います。

土曜日は病院外来は休みですが透析は実施します。

したがって最大収容人員は12名になります。現在江差・松前方面から函館に通院している会員は約15名ほどおりますが、約半数の会員が江差病院に転院できる見込みです。

江差病院は転院するに当たって、今治療を受けている主治医とよく話し合って円滑に移行するよう強く希望されています。

人的・物的の準備万端が整い試

滝川ブロック

「炊事遠

足（花見）」

5年度第1回の行事、花見会が5月16日(日)滝川公園にて行われました。

天候不順の5月でしたが、16日は5月晴れ、雲一つない青空、朝から太陽がまぶしいほどでした。

昨年同様に会の行事に役員がそれぞれ役割分担をきめました。今回の花見は樋部会長と浜口看護部長と私の3名が行事を進める事になっていましたが、会長ご夫妻、看護

部長にすべてお任せの状態でした。

運用期間が終わり、これで大丈夫と本格運用に入るのは7月末頃になる見込みです。

永い間江差病院へ透析施設を設置するようにと強力な運動を進めていただいた道腎協をはじめ、関係機関のご支援、ご協力に厚くお礼申し上げます。

ここにお礼と併せて、道立江差病院人工透析室の概要をお知らせする次第です。(報告：田中政夫)

滝川公園は初めてで私はすっかり花見気分十分です。桜は満開、そよ風にふかれ花びらが舞散り、緑いっぱいひきしめた草原の中に、すみれ草が3、4センチほどにのび薄紫色のきれいな花を咲かせておりました。

会長中心に役員がシートを敷き準備OK。

参加者がそろい、滝川名物松尾ジンギスカンのパーティーです。会員の方がアザミをたくさんゆ





く飲み良く食べてました。次はカラオケの始まりです。プロ並の方々のうたを聞かせていただき楽しいひと時でした。

今回の花見は初めての試みでした。近い所でお年寄りでも、又遠方なら無理と思っている方々に一人でも多くの参加と思い実行しましたが近市町村それぞれ花見会、行事と重なり参加者が少数でしたがスタッフの方々が貴重な日曜返上して参加下さいましておかげで楽しい花見が出来ました事感謝申し上げます。

どの様な行事でも全員賛同、参加は不可能ですが、今回は初めての参加の方々がおられた事はとても安心するものがありました。

(報告…宮本律子)

でて持参してください串団子、菓子、果物など持ちより、シートの上はご馳走で一杯です。

体重を気にしながら、月曜日の血液検査を一応は心配しながら良



一般投稿

「全腎協総会ツアーに

夫婦で参加して」

坂田 真理子(旭川)



楽しい事は自分達が積極的に取り入れなければ素通りしてしまいます。楽しい事もいっぱいあったと思えばこちらの都合も聞かず突然やって来る「いやな事」も素直に受け入れられる気がします。

古風な椅子窓と瓦屋根、歴史の深い寺院と涼しげなもみじ、目に映るものすべてが美しい京都でした。夫婦2人の旅は新婚旅行以来初めての事。主人が小遣いの残りを少しづつ貯めていたのをこの旅行の為に使ってくれました。結婚25年の記念にダイヤモンドでもと思っていたのですが、「一番ほしい物は？」と聞かれた私は「楽しい事」旅行がいい」と思いました。

全道各地から集まった42名が訪れた京都は前日まで30度もあったというのに22、3度と過ごしやすく、しかも夜の雨が朝にはあがるという恵まれたお天気でした。京めぐりは歩く事や階段の上り下りが多く貧血のある方や足腰に痛みのある方達には少しきつい行程でしたがお互いに声をかけ合い、手を貸し、時には車椅子を押してと思いやりにあふれた旅でした。岩崎会長さんや事務局の方々が心をつくし、京の名所や究極の味を充分に楽しませて下さいました。最



「全腎協総会ツアーに参加して」

阿部 幸(小樽)

終日に訪れた薬師寺には何年も前に書き送った私の般若心経も納められている事を改めて思いおこし、お陰様でと手を合わせ、今こうして生かして下さっているすべてのの方々に感謝の想いで頭を垂れました。本当にこうして主人とこの旅行に参加させて頂けたなんて夢のようです。12年前に透析に入ってから何年も次々とおそってくる合併症に悩み、入院をくりかえしていた頃、こうした旅行がある事を聞いても「私達にはとても無理。」と思ったものです。やせて枯枝のように細くなった足で外を歩く事さえできなかった主人がこんなに

元気になり、働いてお金を貯めて私を旅行に連れて来てくれた。

本当に有難い事です。別れぎわ、ガイドさんが「本当にお体を大切に、きつと又来て下さいね。」と言って泣いてしまいました。本当ですね。みなさんずっとお元気で、そして今元気でない方もきつといつか元気になって、こんな楽しい旅行がある事を忘れないで、私もいつか行こう。」と目的を持って頑張りました。この4日間の事はこれから後、いつまでも私の中で輝き続け私を力づけてくれる事でしょう。素晴らしい日を本当にありがとうございます。

「行けてよかった!」今つくづくそう思っています。5月になってもまた迷っていました。と言うのは、最近足の具合がますます悪くなって、みんなについて歩くことなど到底出来ず迷惑をかけるだけでないかと思つたからです。そ

んな時、「大丈夫!私が見てやるから、一緒に行こう。」Sさんのこのひと言で決心がつかしました。

1日目、5月29日の朝、小樽を出発、先は順調。でも春の北海道から一気に真夏の大阪空港に着いた時は流石に暑い。早速ふた昔も前の修学旅行以来の金閣寺へ、以前のイメージとは、かなり違い緑の中に燦然と輝く姿には余り好感を持ってなかった。夜の観光もこれまた最大公約数的な通り一辺のコース。食事も京懐石のサンプルみたいな情緒のないものでした。

2日目はじめて見る琵琶湖。まるで海。おまけに風が強いので波がすごい。大津での総会。分科会。今年には自民党元幹事長の我々人工透析患者への無理解な発言などを例にあげ、まだまだ福祉後進国日本をみんなの力で少しでもよい方へ向かわせたいと言う大会でした。私たちも微力ながらお手伝いしたいと思いましたが、会が終わったら一服するひまもなく、バスで透析に行かなければならない現実が待っているのです。これが私たちの生きるすべて、忘れないが仕方のない生活です。ともすれば落

ち込みがちな私達を先生はじめ看護婦さんが玄關で出迎えて元気づけてくださった「桃仁会病院」心のこもった食事。透析中にいたいた梅酒ゼリーなど昨夜の観光コースの食事よりもよっぽど美味しかったです。親身になっての応待に感謝しました。桃仁会病院のみなさま本当にお世話になりました心から感謝いたしております。ありがとうございます。

3日目嵐山へ日本中何処も自然が失われつつある中で、川にサギやら水鳥を見てホットしました。銀閣寺の渋さはあのピッカピカの金閣寺にない落ち着いた感じで気に入りました。赤毛氈の上でいただいた南禅寺の湯豆腐はなかなかの好評でした。清水寺は歩く距離が長いので土産屋さんの前でみんなの帰るのを待つことにしました。奈良のホテルは玄關までバスが入れない狭い道なので、歩くほんの数米がやっばりつらい。夜は大和路で会食。みんな透析している人ばかりなので私だけじゃない、みんなそれぞれに悩みはあるんだ。頑張らなくっちゃとほんの少しだけど勇気が湧いてき、来年もきつ

と来るぞとみんなて約束しあいました。

4日目いよいよ今度の旅も終わらだ。東大寺で鹿を見ようとちよつと無理したせいか足を滑らせて転んでしまった。土産屋さんの車でバスまで送ってもらいあとはバスの中から見学し、一路大阪空港へ小樽へと帰ってきました。今回の

短歌

京都奈良大津の旅

宮本律子(滝川)



旅は前の四国の旅で一緒にした方で、あんなに元気だったのに今度は大分弱った方(私も含めて)、もう来られなくなった方など、思いは複雑だけど、みなさま方のご親切に甘えて楽しい旅が出来たことに、感謝の気持ちで一杯です。ほんとうにありがとうございます。

古都の旅に友が付けきし万歩計
今日歩きしは七千歩とあり
豪華船ミシガン号の客として初
夏の琵琶湖にひととき遊ぶ

華麗なる装いこらし外輪船ミシガンは琵琶湖に夢をいざなう

船上で若者達に交わらいて手拍子をうちライブたのしむ
こちよき風に吹かれて吾が姿湖岸バックに写されており
おもほえず小野小町の歴史展を
大津のまちに見たるよるこび
西陣の老女の織る手に魅せらるる一糸ごとに織りなすたくみ
京都にて冷たきくずきり食べる
という希いの一つ果たさず帰り来

京都・滋賀の都をたずねて!

(第23回全腎協滋賀総会)

全腎協幹事

佐藤利國(室蘭)

5月27日(木)小雨降る新千歳空港。
私と妻を乗せた日航ジャンボ5
72便大阪ゆきは午後12時15分定

刻どおり大阪へ向け離陸しました。
機体は一気に厚い雲の絨毯を突

きやぶり陽光まぶしい青き空間へ
舞い上りました。「ベルトオフ」の
サイン。さあゆつくりしましょう。
遠々と続く雲また雲の上を飛行す

ること約1時間、機内食(サンド・
紅茶)を食べ、週刊誌を読んでは
いと、「只今、秋田上空です。右側
窓より佐渡がごらんになれます」

とさわやかなアナウンスの声、北
海道上空とは違い雲一つなし。オ
ウノ佐渡ヶ島だ。何んと小さいん
だらう。2つの手の平をたがい違

いに合わせたような形である。プ
ルーグレーの海面に浮いているよ
うに見える。ひよっこりひよっ
たん島を思い出す。お母さん!あ
そこが両津港だよ。パパ!遠くに

大陸も見えますよ!妻としばし
シヤベクリ。
暫らくしてまたまたアナウンス
の声。「富士上空です。」早速右側

の窓をのぞくと遠く能登半島。眼
下にはグレーブルーの白山・飛騨
山系が山肌を残雪で化粧し、何と
コントラストのある美しさである
うか。また左側の窓からは遠く北・
南両アルプス連峰の稜線がのぞま

れさらにその向こうに何と霊峰富
士山が見えるではないか!すばら
しいパノラマである。乗客の感動
のどよめきが機内に響きわたる。
しかし、その感動も一瞬にして

さめてしまった!機体がギシーと
ひしめき、前後左右にゆれ出した。
「ベルト着用」のサイン。「大丈夫
です乱気流です。」と機長の声。飛
行コースが海岸地域から山岳地域
に入ったためのと説明あり。恐怖
の2、3分であった。機内の窓か

ら見える景色はまるで地図帳を拡げているようである。豆粒のような家々が山間や平野にポツリポツリと集合体をつくり、その間を網の目のように道路が走る、高度8千メートルからの景色である。今までに同じ景色を何度となくながめていた筈であったが、今回は日本海コースということもあり、改めて新しい発見をしたように感じられた。また、妻との関西方面への旅行も初めてであり何となく気分も爽快であり、2回目の新婚旅行気分でもある。

さて、大阪上空も快晴である。新千歳空港は曇り、小雨、気温14度であった、新千歳空港を離陸して所要時間2時間30分、午後14時45分、機体はゆっくりと大阪空港に着陸。オウノ暖かいノ気温27度。私には16年ぶりの大阪である。サラリーマン時代はひと月に何度も来ていたが、透析生活13年余を含めて随分とこ無沙汰していました。大阪は随分と変わりました。16年も前のことから当前のこと。バスの窓から千里ヶ丘ニュータウンの風景も全く様変わりである。浦島太郎なみだネ。

生きていて良かったよ！お母さん。妻笑って…これからも…。暑いノ汗が出たよ、お母さんノサウナに入っても汗をかけたことがないのに不思議である。透析時に血圧が下がり出る汗（あぶら汗）ぐらいである。

実に気持ちがいいノ。腕のシャントのことも気にせず半袖だ。ジャリジワリ汗が出る、気分最高である。さて目的地へ。

今度の旅行の目的は、5月30日の滋賀県大津市で開催される、第23回全腎協総会へ出席するためである。そこでその前に京都見物という計画である。

大阪空港から京都行のバスに乗りかえ1時間余、京都で一番古い「都ホテル」へ到着する。

都ホテルは古き伝統を感じさせるゆつたりとした趣のある建物である。場所は京都の東山区にあり、近くには清水寺・永観堂など有名なお寺がひしめき建っている。

ボーイさんに案内された部屋は京都市内が一望できるツインベットの洋室で広々としており、なかなか上品なつくりである。

この都ホテルをベースに2日間

京都散策とする。

さて、最初の行動は透析施設への連絡。予約の確認と場所を問い合わせ確認のためホテルを出て京都市内へ。地図を片手に、45分テクテク歩いて、たずねたずねしてようやく川端診療所。電話では15、6分と聞いていたので近くと、思っていたが何のその、タクシーのことか？歩いてお腹も空いたというのでお好み焼ののれんをくぐる。夕食前だし軽くと。ところがおいしくて、イカ、肉、ミックスと食べ過ぎ…夕飯食べられるかな？…。四条河原を散策して第一日目は一応満足でした。

京都は何百年も続いた古い町、街並は五番の目になっているが道路は狭く、狭い道路を電車・バス・タクシー諸々が入り乱れて走っている。家や建物も小さく低くマツチ箱のように感じられる。反面お寺は大きく敷地も広い。高い建物は条例で禁止されているそうだが、最近ではマンション建設で景観論争からお寺の拝観禁止問題まで起きたとのこと。坊さんがケンカしてケ(毛)がなかったんだらうか？いやいやもうケ(毛)がなくなっ



たとさ!! お粗末！（拝観料が入らなくなる）

京都の水がまずいノ消毒水そのものである。滋賀県の琵琶湖から取水しているとのことであるが、室蘭の水を飲んでる私にはとても飲めませんでした。京都・滋賀県の人達には悪いと思いますが、滞在中、私は六甲の天然水のお世話になりました。水はおいしくなかつたけれど住んでいる人達はとても親切でしたよ。ものごしやわらかで、口調がいいノ「オイデヤ

ス・スマヘン・オオキニ」いい感じであるが男性はちよつと気色が悪い！またホテルの食事は和食が最高！懐石料理でもり合わせも上品そのもの、おいしいし、やはり京都ならではの。

5月28日第2日目、京都へは何度も仕事で来ているし、有名なお寺は大体見物していることから妻も私も見えない所ということ、京都郊外にある高雄山・神護寺へ出掛けることにしました。神護寺のある高雄山にはバスで1時間余



り、京都市街の狭い道路をくねくねと走りぬり、さらに道は高雄山へと続く。

バスの窓からは、うっそうと繁る竹林、色彩豊かな新緑のカエデ、雄壮な松の木・杉の木林が次々と眼の中に飛び込んでくる。北海道では見られない景色である。

山道を登ること15分余り、めざす高雄山に到着。バスを降りるとそこには茶屋・旅館・民家など十数軒あり観光客でにぎわっていた。

さて、めざす神護寺は？案内板に眼をやると、はてはてこれから石段を下り、谷川へ。さらに石段を15分登るとある…。これは前途多難が予想される。妻と私は意を決して石段を下り始めた。谷間を流れる清流は清滝川といい、朱色の神橋がかかっており、それを渡るとさらに茶屋や旅館が数軒ある。

また、川岸にはお花見や、紅葉がりの緑台が置かれ、みるからに風流なただすまいである。ここで一句といきたいところが…絶句！！上を見上げればそこには石段が無情にもはてしなく続いているのである。さあこれから私にとって難所の石段登りである。

今日は朝からとてつもない良い

天気である。気温は、今年一番の30度と暑い。しかし、汗が出るし

気分は最高！さあ出発だ。「パパ、ガンバッテ！！」の妻の声に励まされて一歩一歩石段登り、ヨイショヨイショ「パパノ上を見ちやダメノ」

度々妻に「カツノ」を入れられ15分登っては一休み。ようやく中間地点にたどりついたところに茶屋

があり、何とノのれんに「かき水」とある。オウノのどはカラカラオーパーヒート気味、早速イチゴのかき氷をかぶりつく「冷たい！オウ、

生きているよ、お母さん！」妻と顔見合せて笑う。ここで二人で記念写真をバチリ！

さあ！めざす神護寺は？途中見物帰りの観光客に「後どの位ですか？」「もう少しだからガンバッテ！」に励まされながらエンヤコラショノ！

「アーシンドイネ、お母さんもうやめようよ！」「もうちよつともうちよつと。」妻の声をとりなおして…胸のエンジンは大丈夫…し

かし車体の動きが思わしくない。ガクガクしている。中間地点の茶屋を出発してから約15分。見えました神護寺の神門が…やりました

休息を含めて約45分の所要時間。

透折生活に入ってからこんなにも汗をかいたのは初めてである。やりました。いい汗でした。「神護寺

の仏様のご利益だね。」妻は笑って「そのために登ってきたんですよ。」もつともらしい返事である。

いやあー。マイッタマイッタ。ここ、神護寺は平安時代に和氣清麿によって建立され、平安仏教

の租である最澄・空海の2人の著名な僧侶により布教活動がなされた歴史的に有名なお寺であり、平安

安仏教の発祥地である。また、神護寺の西端にある地藏院の庭から眺められる清滝川は「錦雲峽」と呼ばれ「かわら投げ」の「かわら」のゆくえ定めかねる「千

仞の湫谷」として知られている。聴くところによると現皇太子妃殿下の稚子様以前「かわら」投げをなさったそうである。私たちも肖って投げました。1セット参

百円也。

神護寺は古さと静寂な趣の中に歴史の流れる重みを感じるとともに、またその環境は何ともすばらしい境内である。修業の僧が話すには、春は桜、初夏の「かえで」

の新緑。秋は「かえで」の紅葉がすばらしいとのこと。今度は新緑そのものである。生きている実感をあじわいました。皆さんを京都へお出掛けの際はぜひ訪れてみては如何です!!

神護寺もうでもどうやら無事終わり、心身ともに浄められた思いがしました。さあ/またこられるかな? 疲れたけれど楽しい1日でした。

ホテルへ午後3時に帰着。足が棒のようです。少し休んで透析へ。

透析を受けた川端診療所は京都市の繁華街(四条河原)より加茂川と1キロ弱上がった川沿にありました。腎センターの規模は日鋼記念病院の腎センターと同じくらいであり、夜間透析も行っています。スタッフはテクニシャン、看護婦さんを合わせて十数名、仕事もきびきびとこなし、とても気持ちよく、順調に透析ができました。特にこの施設の給食がおいしかったですよ。

カツオの刺身、ジャガイモのグラタン、サラダ、プリンのデザート、そしてグリーンピース入りのごはんとなかなか豪華であり、食欲

をそそる献立でした。私の病院と余りの差に、ため息がでるばかりである。それに看護婦さんが美人ぞろい、京都弁がまたよろし/また行きたいネ。午後8時10分透析が終わり、京都の2日眼も無事過ぎすことができました。

さて、今日は5月29日(出第3日目、天候は快晴である。朝食を早めにとり、午前9時丁度、チェックアウトする。今日は暑くなりそうである。さあ出発/ホテルの前を通る京都電車で今度の旅行の目的地である滋賀県大津市へ。大津市は京都からひと山越えるだけである。所用時間30分余りと近く、京都電車の終点駅は琵琶湖の玄関口である浜大津。なかなかこじんまりとしたきれいな街並である。そこからタクシード10分余り、琵琶湖の湖畔沿いを走り、明日の全腎協滋賀総会の宿泊ホテルである大津プリンスホテルに到着する。琵琶湖は広い/まるで海のようなのである。

その一角にシンボルマークのようには半円形の大津プリンスホテルがそびえ建つ。

38階建てのホテルの全客室が琵琶

湖に面しておりなかなか壮麗な眺めである。ホテルの廻りには近代的な観光施設や緑の空間、ヨットハーバーありで観光リゾート地として旅人のロマンをかきたてる雰囲気は満点である。

その風景は絵ハガキを眺めているようである。

しかし、残念なことに琵琶湖の水はお世辞にも美しいとはいえない。水の色はどんよりと濁り透明度はゼロに近いのではないだろうか? かなりの環境破壊があるようだ。

ここで、琵琶湖がある大津市を紹介しましょう。大津市は琵琶湖国定公園の西南部の湖畔に位置する滋賀県の県庁所在地であり、観光琵琶湖の玄関口であります。大津市は大津京以来1,300年を経た文化遺産と近代的観光施設と新旧の調和が見事にとれた街であり、四季おりおりの自然の美しさは最高であると観光パンフに書いてありました。大津地方は歴史的にも古く、万葉の時代以前にさかのぼること1,300年前、667年に天智天皇によって都を大和から近江へ遷都され大津京が誕生

するのである。それ以後大津地方は数世紀にわたり政治・経済文化の主要な拠点として日本の歴史の中で重要な役割を果たしてきたのである。大津にある重要な建築物・国宝文化財はその歴史の流れと重みを物語っている。紫式部の源氏物語で知られる石山寺。天台寺門宗の総本山である三井寺はよく皆さんに知られています。比叡山と緑の連山を背に満々と水をたたえる琵琶湖に育まれてきた大津。とてもすばらしいところでした。

私はこの度の総会で前回に引き続き、分科会の司会の役目をおおせつかり、その準備委員会が午後3時から開催される予定であることからそれまでの空き時間を利用して妻と相談した結果、三井寺もうでに出掛けることにしました。

三井寺はJR大津駅よりバスで10分余りのところにあり、天台寺門宗の総本山園城寺として知られ、現在は国宝重要文化財・名園など貴重な寺宝を数多く伝えています。また、ここ三井寺は三名鐘の1つ「三井の晩鐘」で有名であります。一打・参百円也!!

三井寺には沢山の観光客がバス

を連れて参拝に訪れていましたが、寺の境内は広大であり緑の樹木・竹林が整然と立ち並び古い建築物とすばらしいバランスを描き出している。ここには万葉のロマンがある！実に静寂であり、しんとしたメロディーが聴えるようである。これは古き歴史の流山であり何とも想像しがたいものである。

広報員通信

私の思い出の映画

「喜びも悲しみも幾年月」

高橋 栄子（小樽）



昭和30年当時、もう40年近くになります。時代も大きく変わり、文化はすっかり姿をかえました。

私と妻はこの三井寺の静寂な空間の中で2時間余り、散歩し寺院の階段に腰をおろし時おりなくすずめや小鳥の鳴声を耳にし、本当に心身共にやすらかなひとときを過ごしました。

大津へおこしの際はぜひ三井寺へゆけ!! (つづく)

『映画』も、内容もすっかりかわりました。悲惨な戦争は戦後末期に上映中止され、アメリカやヨーロッパ的なものになりました。

何等意味のない騒ぎ中心のものになりました。(私は、そう思いました)戦争映画から変わったばかりだから意味のない内容を作って、大口開口してもらえばよい。それによいのである。笑って馬鹿になっ

てくれ、そこへこの映画『喜びも悲しみも幾年月』が出てきたのである。

灯台に勤務する2人の若夫婦物語である。わが国は地形上、海岸線は長く湾曲が多い、そして屹立する断崖が多い。海難が多いから、どうしても灯台の数が必要なのに、予算不足なんです。灯台員は何年かごとに僻地や極地に転勤させられるそうです。転勤になると、現在のよう便利な方法で移されるのではなく、任地まで一步一步荷物をかついでよじのぼって行くのである。一步、足を踏みはづすと命を落とすことさえある。

結婚したての2人が、極地へ転勤を命じられ出発した。海岸近くに来た時、荒波でまるで波にすいこまれそうなこの地で部下の家族

と供に助けあいながら、難波しそうな船に光を送りながら必死で生活をすると言う物語であります。

丁度この映画を見た頃に私達は結婚したばかりで、この夫婦に感動して見たものです。夜、見終わって映画館を出る時は皆が目を赤くして、それぞれの家路についたものです。

喜びも悲しみも幾年月と言う歌は今でも時々テレビなどで歌われておりますので歌を聞くたびに映画が思い出されて、自分達の生活がどんなに幸せであるかが感じずに居られません。現在の日本は道路も良くなり、食生活も10年前とはまるでちがいます。

文化と共に福祉の良くなる事を念じて筆をおきます。

「S・F映画」

小西 誠一（函館）

かつて、映画が大衆の娯楽の王者であったころ、繁華街の近くに住んでいた私は、暇さえあれば映

画館へ出かけて行った。アメリカのハリウッドが、物量にも言わせてスペクタクル大作を世に送っ



た「十戒」では、海が左右に割れるシーンに目を見張ったし、「ベン・ハー」の戦車競争シーンの迫力には圧倒された。西部劇も全盛であった。リバイバルで見た「荒野の決闘」や「シェーン」が、西部劇とはいえ、実に詩情豊かな映画であった。ミュージカルにもまた、すぐれた作品があった。ウエストサイド物語や「サウンド・オブ・ミュージック」は、その音楽と相まって感動を呼ぶ映画であった。ヨーロッパ映画にも、「刑事」や「太陽がいっぱい」や「禁じられた遊び」などのように、佳作がすくなくなかった。

「猿の惑星」(フランクリン・J・シヤフナー監督、チャールトン・ヘストン主演)は、猿が人間を支配する惑星を描いた映画で、ラストにはアツと驚くどんでんがえしに注意されていて、ラストシーンの妙味を堪能した。

科学技術の進歩にともなって、近未来に起こりそうな出来事が、最新の特撮撮影技術(SFX)によって映像化されていった。68年製作の「2001年宇宙の旅」(スタンリー・キューブリック監督)は、S・F映画に新時代を築く記念碑的作品と高く評価されたが、この映画の形而上学的、哲学的内容は、私には難解であった。ただ、この映画を見たとき私は、あたかも自分が宇宙旅行をしているかのような気分になったし、宇宙遊泳のシーンでは、自分も暗黒の宇宙空間へ吸い込まれて行きそうな不気味な感覚にとらわれたものであった。

何らかの信号を傍受し、ある惑星に着陸する。乗組員の1人は大きな卵を発見するが、卵から何かが飛び出て彼の顔に付着する。宇宙船に運ばれた彼の胃を破って、エイリアンが出て来る。乗組員達はエイリアン狩りを始めるが、神出鬼没のエイリアンは、体の構造でも攻撃力でも完全無欠の生物として、脱皮しながら急速にしかも巨大に成長し、1人また1人と乗組員に襲いかかるのである。そしてついに、女性乗組員(リブリー)が最後の1人となる。彼女は最後の手段としてエイリアンもろとも母船を爆破しようとする装置を作動させ、懸命にシャトル船に逃れ脱出に成功する。だが、このあとに驚かされる光景が待ちかまえているのである。

この映画ではまず、H・R・ギーガーのデザインになるエイリアンのキャラクターが、架空の生き物とはいえ、世にもおぞましい凶暴そのものの姿、形をしているし、また、光と音が実に効果的に使われているリブリーが脱出して乗り込んだシャトル船には、実はエイリアンがひそんでいることに気づ

くのである。室内灯の点滅の中で、エイリアンのうごめきが見えかくれし、これが緊張感を一層高めるとともに一触即発の危機感を高めるのである。

この映画の冒頭に、乗組員が惑星の構築物を調査中、風の音とも何かの遠吠えの音ともつかないような不思議な音がして、これから起こるかもしれない恐ろしい出来事を予感させる。また、宇宙船の機関室から聞こえてくるエンジン音は、心臓のはく動にも似て、胸が圧迫されそうな感覚に陥る。恐怖と緊張感が全編を貫く心憎い演出の映画である。

印象に残っている映画はほかにいくつかあるが、字数が制約されているのでタイトルだけでも触れさせていたきたい。宇宙から地球の南極にある生命体が落下し、次々に姿を変えながら、基地の隊員達を殺りくする映画、82年制作の「遊星からの物体X」(ジョン・カーペンター監督、カート・ラッセル主演)。人間の運命の鍵をにぎる1人の女性を抹殺するため、近未来から現在に送られ、殺りくを尽くす殺人ロボットを描いた84年

制作の「ターミネーター」(ジェームズ・キャメロン監督、アーノルド・シュワルツネッガー主演)、次々に人間をボディースナッチ(体に乗る移ること、または、体に乗る取られること)し、犯罪をくりかえしながら逃亡するエイリアンをそれを追跡する刑事やFBI捜査官を描いた89年制作の「ヒドゥン」(ジャック・ショルダー監督、カイル・マクララン主演)。

これらはいずれも、未知の物体によって人間が犠牲になる恐怖を描いたS・Fサスペンス・ホラーとも言える映画で、息つく間もな

いほどのスリル、スピード、サスペンス、アクションの連続は、見る人に時間がたつのを忘れさせてくれる。

尿毒症で消えかけた生命が人工透析によってよみがえり、私は何とか人並みに生活することができている。おまけに、人工透析に必要な医療費は自己負担がなく支払われないですんでいる。まことにありがたいことである。あと何年生きる事ができるかわからないが、好きな映画を毎日でも見たいと思う。そうできるのも今しかないからである。

「風と友に去りぬ」

黒田 秀樹(苦小牧)

20年ほど前、当時15歳だった私は受験勉強そっちのけで読書に熱中していた。その中でも特に寝食を忘れ夢になつて貧るように読んだのがマーガレット・ミッチュルの「風と友に去りぬ」であった。河出書房のこの全4巻になる大作を3週間かけ一気に読みきった。

中学生には少々難解な部分もあったが、南北戦争の時代のアメリカ南部の大農場を舞台とした一大恋愛小説はハラハラ、ドキドキの連続で特に女主人公のスカレット・オハラその奔放な生き様に一種の感動をおぼえたものである。その「風と友に去りぬ」が今は

もうない王子娯楽場で何回目かのリバイバルとして上映されたのはその年の秋であったと思う。私は初日に見に出かけた。あの名曲、タラのテーマとともにえがきだされる、アメリカ南部の地平線の彼方まで続く綿花畑とそこで働く当時、奴隷としての黒人の男女の姿、私はたちまちのうちに映画の中にひきずりこまれていった。スカレット役のビビアン・リーの花持ちならぬ妙な美しさ、レット・バトラー役のクラーク・ゲープルの生々しいまでの男くさは、原作の配役のイメージをそこなうことはなかった。

今でこそ不条理な奴隷制度もその当時はそれはそれである社会秩序として成り立っていたこと。奴隷解放をうたったリンカーンもその真意は南部と北部の利権の争いにすぎなかったこと。そして南部の敗北が後、南部の衰退につながったこと。教科書では教えてくれなかった様々の事実を映画は教えてくれた。焼きつくされた綿花畑の中で主人公スカレットが、つぶやく名ゼリフ「明日は明日の風が吹く」しかり真実。

今もその一言が私の魂の奥底のある一部分に確かに埋もれている。人間なるようにしかならない。映画はそう私に語ってくれた。

この大作を読み映画を見ることが他教科にはせんせん役に立たなかったが国語の点数だけはあがったことを今でもおぼえている。

ビビアン・リーもクラーク・ゲープルも今はものこの世にはいないが、私の心の小宇宙で今もたしかに生きつづけている。



「ただ今勉強中」

徳田 秀男（旭川）



昭和62年市内の病院に糖尿病と診断され、以来通院して居りました。身体に神経を使っているも人生働き盛り家庭の柱としても頑張らざるをえなかった訳です。しかし平成4年7月変調をきたし、今の旭川日赤腎臓内科で受診、腎臓が悪いと診断されたらちに入院しました。始めは良くなる事を期待し不安な入院生活をして居りましたが年が明けると透析となりました。家庭のこと、仕事のこと、そしてわが人生、虚脱と、

これに乗切りたいと云う生命力のような意志が繰返される入院透析でした。それから7ヶ月、患者会に入会し私達が大変めぐまれた幸せな医療環境の中にある事を知りました。そしてこれが患者会活動の成果であることも知りました、有難い事です。気が付いて周囲を見廻しますと元気な患者も大勢います、私も人生盛りの49歳、家庭と家族の為、強く、楽しく、幸せに、病に負けずに頑張ります、その為まず、病気を正しい生活を実践する事が大事だと思えます、幸せな事に、旭川日赤では毎月腎臓病教育があります又透析7ヶ月仲間の患者も先生です、「勉強く」。

私は次のことに気を付けています。

- 1、日常生活では何でもはじめが大切と考え、食事の管理が基礎となるので腎臓病食品交換表を参考に食事を工夫して居ります。
 - 2、体力維持の方策として、まず透析は病気ではないと頭に云い聞かせ腰を軽く動くように心掛けて居ります。
 - 3、知識補給の場として会員とのコミュニケーションを大切にしています。
- 又将来共今の人間らしく生きれる医療環境であることを期待しそのため、会活動の発展に協力するつもりです。

☆ タクシー料金

一割引の手続き

簡単に

タクシー料金の一割引の手続きが身障手帳を運転手さんに見せる（運転手さんがNoを控える）だけで割引して頂けるようになりました。タクシーの基本料金チケットを持っている方は、最初に料金から1割を引いて、残金からチケット分の料金も引いてもらえます。

☆ 一寄付を

いただきました

○ 小樽ブロック会員故阿部昭二様のご遺族の阿部しずえ様より、5万円のご寄付を頂きました。

☆ 東室蘭サテライト

クリニック開院！

— 室 蘭 —

室蘭地方腎友会が長年増床運動をしています、日銅記念病院のサテライトが開設しました。昨年9月から建設を進めていた「東室蘭サテライトクリニック」が完成、8月19日より診療を開始しました。人工透析ベット45床のほか入院設備や透析後の休息室もできました。

☆ 道南西沖地震

での会員への

被害はなし

去る7月12日の道南西沖地震では、会員の皆様も驚かれた事と思いますが、道腎協でも早速、道南腎協に問い合わせ致した所、幸いなことに、会員への直接的な被害はなく、各透析施設も医療に支障をきたす損害はなく、一部のテレビが落ちるなどの被害で済んだようです。

今回の地震でも、全腎協や、数ヶ所の県腎協から、ご心配の電話を頂きました。

給食、室料に患者負担

医療保険審が

「中間まとめ」

医療保険制度の一元化など制度の「抜本改正」をめざして昨年からの審議をつづけてきた医療保険審議会は、6月23日、「これまでの検討内容の中間まとめ」を発表しま

した。

同審議会の「中間まとめ」は、「超高齢化社会の到来を控え、疾病構造の変化、国民の医療ニーズの多様化、医療の高度化など社会経済の変化に対応し、将来にわたってすべての国民が安心して医療が受けることができるよう、ゆるぎない医療保険制度を確立する必要がある」などとして、公的医療保険の役割と今後の対応、公的医療保険の給付の範囲・内容の見直しを検討する考えを示しています。

このうち、「給付の範囲・内容の見直し」では、給食について、「住宅・施設間を通じた負担の公平、給付の重点化、給食の質の向上を図る等の観点から、給食に係る給付のあり方を見直す必要がある」として、給食費の患者負担導入の考えを示しています。室料についても、「患者のニーズ」を根拠に「見直しの必要」をうたい、薬剤・治療材料も「使用の適正化、保険給付の必要性、優先度から」同様に「検討する必要がある」との考えを示しました。

今回の審議会の考え方はとくに目新しいものではなく、健保本人

の割負担を導入した1984年（昭和59年）10月実施の健保法改善時の当初案にも、食事代患者負担、ビタミン剤、かぜ薬、貼り薬の保険適用除外が、健保本人二割負担とともに盛り込まれ、全腎協など患者団体の厚生省前座り込み抗議など、国民的な批判の前に撤回せざるを得なくなった経過もあります。それ以前にも再三、保険財源浮かしの手段として登場しています。

ところで、会員の中にとくに危機感の強い透析中の食事代の患者負担については、今回の見直し論が入院給食費であり、外来の透析中の食事対象とされるかどうかは現時点では確定的なことはいえません。しかし、昨年、厚生省の幹部が「例外なくすべて」と発言していることや、外来の治療に食事が保険給付されることのほうが例外であるなどを考え合わせると、入院給食費の保険適用除外が答申としてだされ法案に盛り込まれれば、外来透析の給食だけ保険給付が継続されることは考えにくいことです。

厚生省は、医療保険審議会の答

申を年末にも受け、来年の通常国会に健保法「改正」案を提出して、7月からの実施を予定していると伝えられています。

こうした医療保険制度の改善を許さないために、全会員の結束した運動が必要です。全腎協では、審議会や厚生省の動きも見極めながら、会員に情報を的確に流し、JPCなども連携して、厚生省への要請行動、厚生省、国会各党などへのはがき要請運動、集会、署名運動などを展開していくことにしています。

緊急署名運動の取り

組みにご協力を

患者自己負担を

やめさせよう

JPCでは、現在検討されている、給食、室料、クスリ代の保険適用除外の中止を要求する署名運動を開始しています。厚生大臣へ多くの仲間の声を届け、患者負担の導入に反対しましょう。

インジョイ 低リン豆腐フード

内容量 290g

(原材料名: 乳清たんぱく質粉末、九大豆、乳糖、
精製大豆油、グルコノデルタラクトン、
塩化カルシウム、乳化剤)



豆腐と同じように、そのまま素材として……
食べやすく、しかも低リンです。

特長

- リン、カリウムの含有量が極めて少なくなっています。
- たんぱく質、脂肪などの栄養素がバランスよく含まれています。
- 豆腐と同じようにそのまま、あるいは味噌汁の具、麻婆豆腐などの調理用素材としてご利用いただけます。

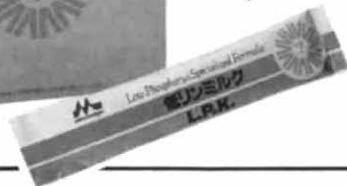
(ご注意)

必ず冷蔵庫(4℃~10℃)に保存してください。
製造後6ヵ月間は保存できますが、開封後は早めにお召し上がりください。

低リンミルク L.P.K.

内容量 20g × 15本

(原材料名: カゼインナトリウム、乳化剤、pH調整剤、
塩化カルシウム、塩化マグネシウム、
ビタミンE、香料)



1993.6
特定保健用食品
第1号として
厚生省より認可
されました



食事療法の一環として
効果をより高いものに……

特長

- リン含有量は、牛乳の1/5以下(100ml当り)に調整しています。
- カリウム含有量を牛乳の約1/2に調整し、カルシウム、鉄を增强しています。
- エネルギーは、牛乳の約1.5倍確保できます。
牛乳100ml当り59kcal
低リンミルクP.P.K.100ml(20g使用)当り92kcal
- ビフィズス菌増殖因子であるラクチュロースを配合しています。
- スープ・シチュー・パンなどの調理素材として牛乳のかわりに、ご使用いただけます。

購読料は
会費に含む

札幌市白石区流通センター1丁目11番17号
森永乳業株式会社札幌支社
低リン食品担当係
TEL(011) 865-2821(直通)

上記低リン食品について資料をご希望の方は、官製はがきに  を切り取って貼り、〒、住所、氏名、電話番号、年齢、透析年数、透析病院名をご記入の上、右記へお送り下さい。

